

2016年2月9日

「環境未来都市」構想推進国際フォーラムinポートランド



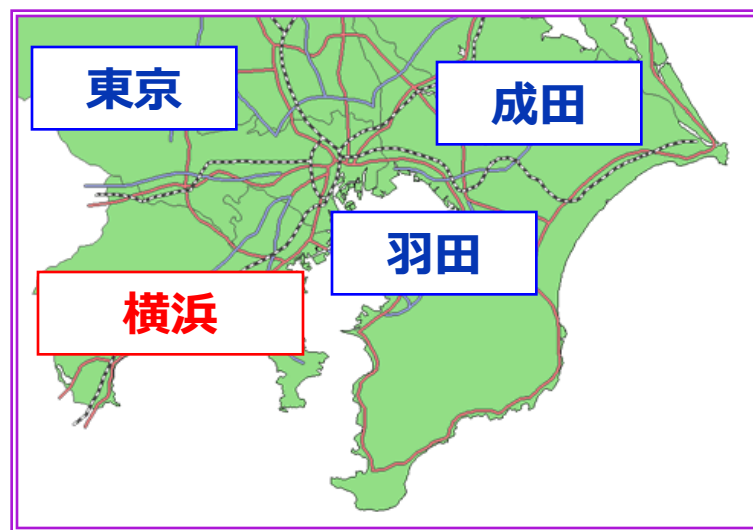
環境未来都市・横浜での 市民と協働したまちづくり

横浜市 温暖化対策統括本部
環境未来都市推進担当理事

信時 正人



- 国際海洋環境都市（開港156年目）
- 人口：約370万人（日本で最大の市）
- GDP：約12.5兆円（1000億U Sドル）
- 羽田空港から最短21分
- 急速な発展と都市化



横浜の歴史 ～これまでに乗り越えてきた課題～

1859年 横浜開港

開港時：小さな村

開港後：横浜は日本の国際的な玄関口に

1923年 関東大震災

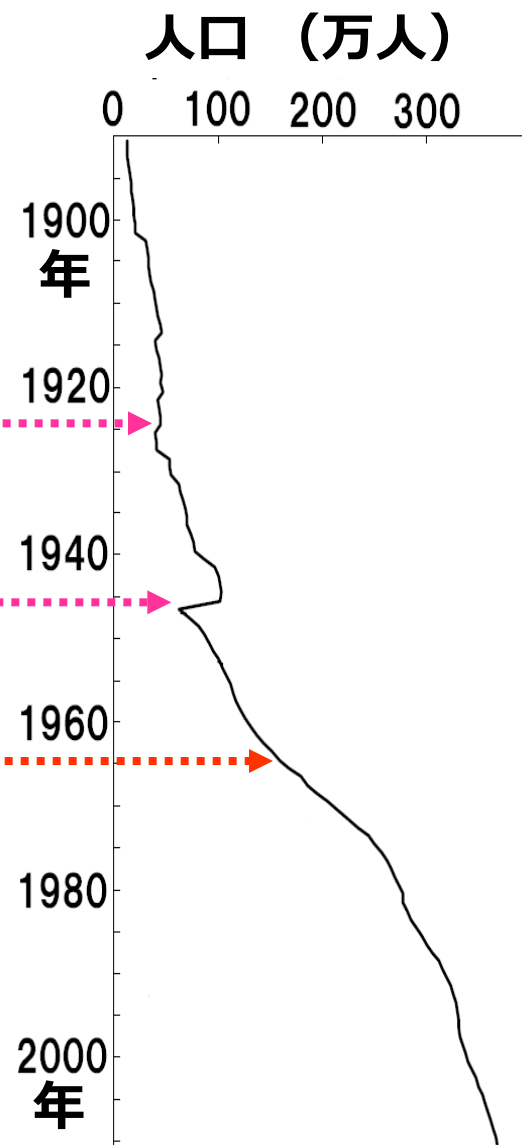
横浜は壊滅的な被害を受けるも、
その復興の中から現在の都市部の骨格を形成

1945年 横浜大空襲

米軍による市内枢要部の接收

1965年～ 高度成長期

人口集中 ⇒ 無秩序なスプロール化
⇒ **住環境の急速な悪化**





横浜の「5大戦争」

- ・環境破壊
- ・ごみ
- ・道路交通
- ・水資源
- ・公共用地





横浜の「6大事業」

- ・都心部の強化
- ・金沢地先埋立
- ・港北ニュータウンの建設
- ・高速鉄道の建設
- ・高速道路の建設
- ・ベイブリッジの建設



横浜市の人口	約372万人（日本の基礎自治体で最大）
世帯数	約165万世帯
自治会町内会 加入世帯数	約124万世帯（加入率 約76%）
NPO法人数	約1,300



公共意識の高い市民

「ヨコハマはG30」の取組・成果

- 課題：市内のごみ排出量が人口の伸び以上に増えている
- 目標：2010年度におけるごみ排出量を30%削減（2001年度比）

徹底した分別排出

2003年度に開始

使用済製品の回収・リサイクル

◆目標達成

- 5年前倒しで達成
- 2009年度実績で**約40%削減**

◆削減効果

- 2つの清掃工場が不要になり、
建替費用 **1,100億円削減**
運営経費 **30億円削減**



あらゆる場面での徹底した普及啓発

- 住民説明会（11,000回以上）
- 市内全駅、イベント等でのキャンペーン

2009年に世界銀行から「**Eco 2 Cities**」（エコロジカルで経済的な都市）に選定

環境未来都市・横浜の将来像



活動

文化、芸術、産業、
ビジネス活動、
コミュニティ

社会的なインフラ

エネルギーネットワーク、
医療、介護、
福祉、子育て

自然環境 (自然のインフラ)

水、緑、
大気、土壌

ICTインフラ、オープンデータ

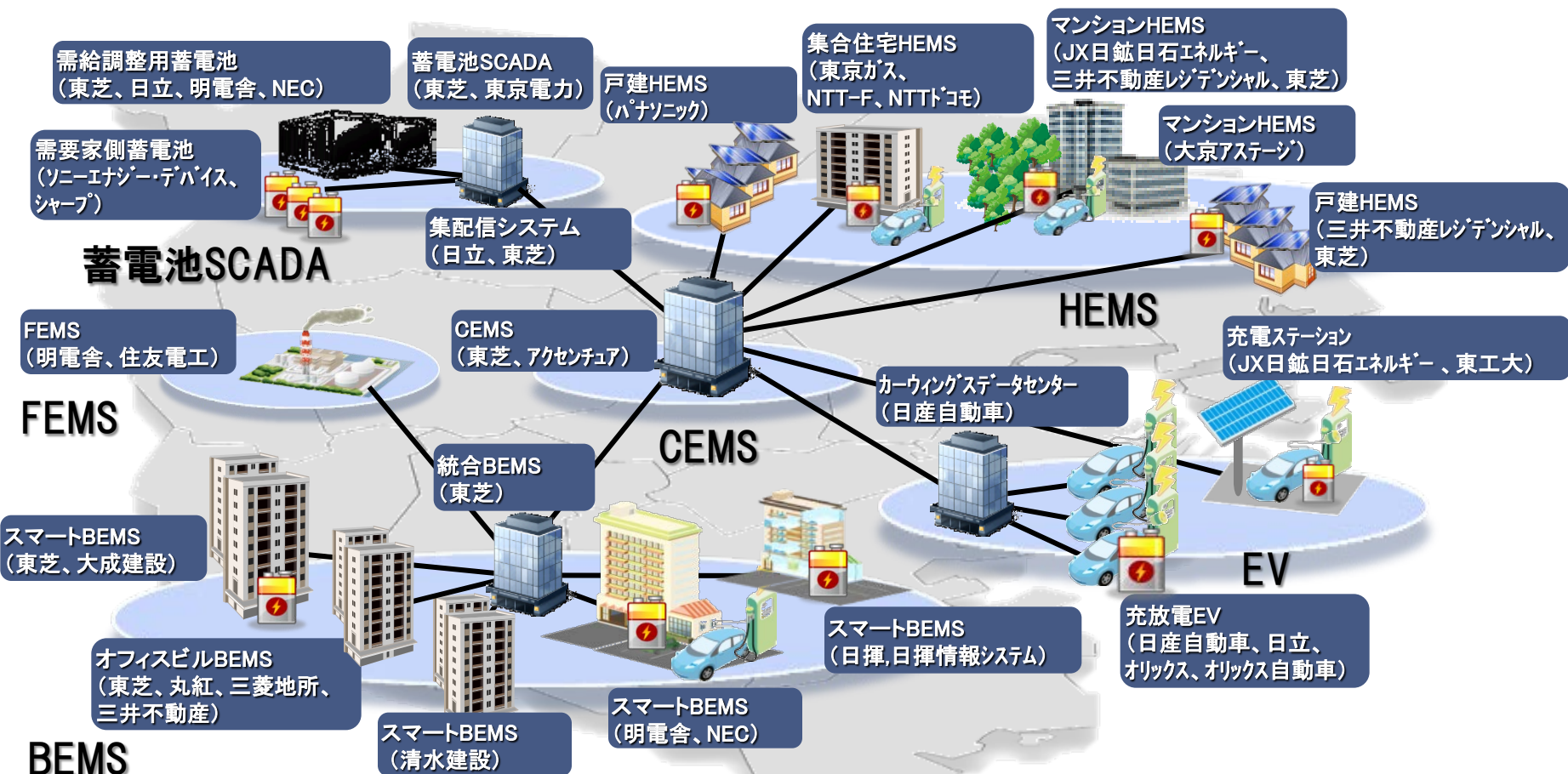
横浜スマートシティプロジェクトの全体像

大規模既成市街地を舞台にした、地域エネルギーマネジメントの開発・導入実証事業

■導入実績／目標（2010～2014年度）

HEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）（**4,200件**/4,000件）

太陽光パネル（**37MW**/27MW）、電気自動車（**2,300台**/2,000台）



HEMSを導入した市民のご意見



- 普段から節電を心がけているという I さん宅
- 2012年3月13日に、プロジェクトに参加いただき、HEMSと太陽光発電を設置しました。
- 発電量と売電量が一目でわかるHEMSが置いてあるので、子供たちも使用電力量を意識するようになったそうです。
「学校から帰ってきて、『売ってる！』という風に言ってますね。」とのコメントも。
- ご自身も「家事をしながら『掃除機を使うとこれだけ電気を使うんだ』と分かるので意識が高まります。」と、HEMSの効果を実感されています。

このような**意識の高い市民**の方々との協働により、HEMS 4000件の導入を達成

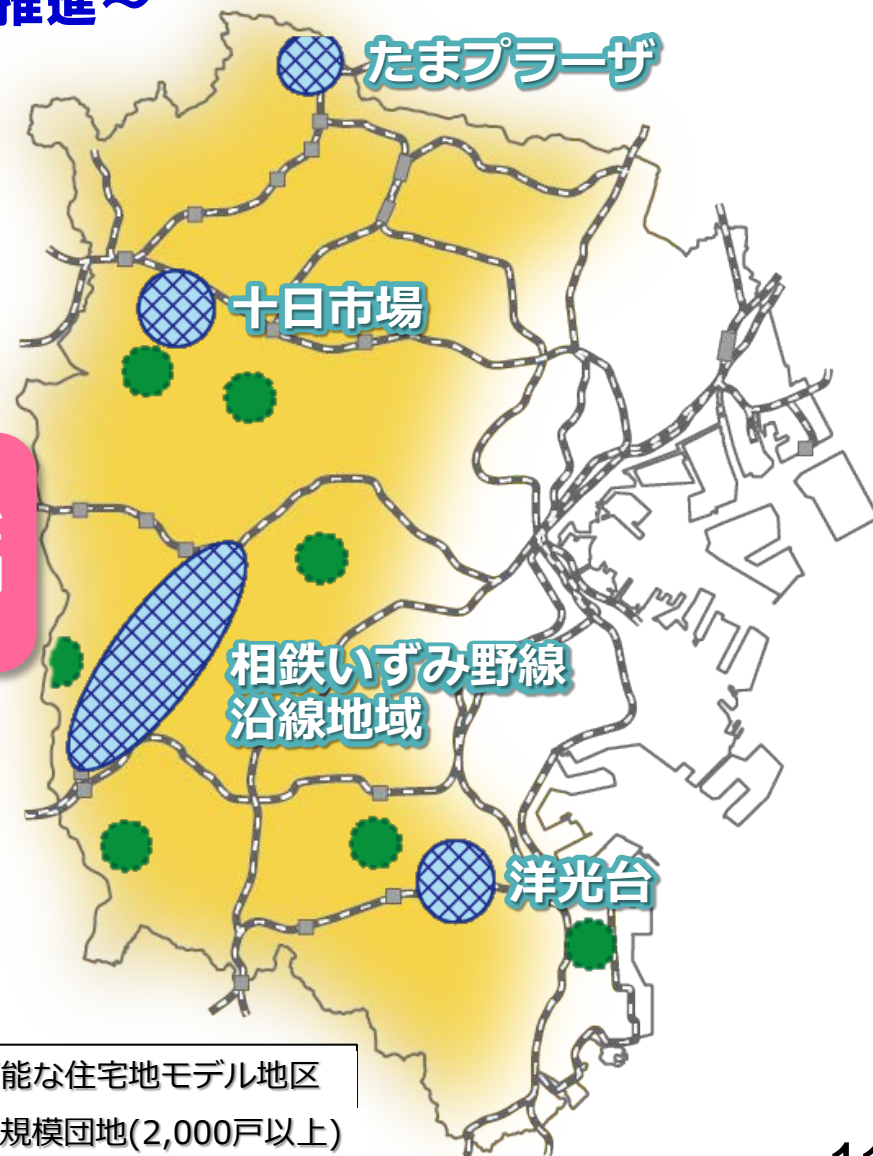
郊外部の再生・活性化

～持続可能な郊外住宅地モデルの構築・推進～



持続可能な住宅地モデルプロジェクト

成功事例を
全区へ展開

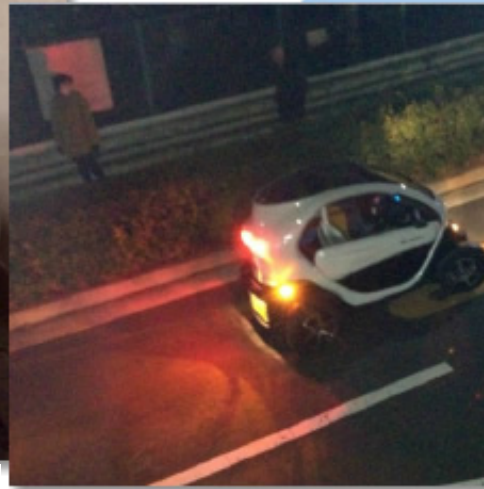


団地の再生

超小型モビリティ モニター調査@東急田園都市線沿線エリア

～ 超小型モビリティの導入が実際のライフスタイル、交通、市民の日常生活にもたらす変化について、子育て層を例に、具体的な姿として描き出す ～

内容： 超小型モビリティを子育て世代の一般家庭に14日間貸し出し、モニターとして利用
期間： 2013年2月19日（火）～3月4日（月）
エリア： たまプラーザ駅北側地区他、東急田園都市線沿線
台数： 7台（1世帯に1台、計7世帯）



超小型モビリティ モニター調査@東急田園都市線沿線エリア

我が家の駐車場は、2台目が軽自動車しか入らない大きさですが、超小型モビリティなら問題なく停める事ができて、荷物出し入れまでスムーズにできる！

窓がない分、ガソリン車が近くを通ると、その騒音や排気ガスのおいを直に体感し、静かで空気を汚さない電気自動車の良さを実感しました

思ったより充電時間は少なく、運転もしやすく、今までだったら車を出すのが億劫に思えたような距離でも、気軽に外出できるようになり、外出頻度が増えました

とにかくルックスがかわいいです

かなり急な坂道でも問題なく発進でき、加速もスムーズ。運転するのが楽しくて、狭い道でも「入っちゃおう」という気分になり、目的もないのに近所をドライブしました。

利用者（主婦）
の声

（6歳未満）の小さな子どもは乗れないのが残念

真冬はやっぱり寒い！乗車は11時～15時が限界かなと感じました。

窓がないので、後部座席に荷物を置くと落ちてしまうことがあり、取り外し可能なカゴをつけるとか、何か工夫が必要だなと感じました

～次世代郊外まちづくり～ 住民創発プロジェクト

元気で豊かなコミュニティや魅力的なまちの実現に向けて、地域住民が15の企画を提案

➤ たまプラ ナイトウォーク ～光でつなげる街の輪～

アートプロジェクトを手掛ける団体と商店街が
コラボレーション



『たまプラ ナイトウォーク』
(2013年12月14日)

➤ たまプラーザ電力プロジェクト

再生可能エネルギーについて住民自らが学び、
考え、ご当地電力を展開

➤ たまプラ油田開発プロジェクト

家庭等で排出される廃食油を回収し、
再利用可能なエネルギー資源にする活動を展開

➤ 3丁目カフェ

地域活動の活性化や新たなコミュニティ創出につながる場を提供

➤ フラッシュモブ実行委員会

まちの人たちでつくる
オリジナルパフォーマンス
(フラッシュモブ) の実行



『フラッシュモブ』
(2013年11月4日)

ヨコハマ・エコ・スクール (YES)

「横浜で地球温暖化対策を学ぼう」をキャッチフレーズに、市民、団体、事業者、大学などが行う「環境・地球温暖化問題」に関連する学びと行動の場を、全市的なムーブメントに



協働パートナー：144 団体
(2015年12月18日現在)

講座：377 講座 (2014年度)

受講者：約35,400 人 (2014年度)



～多くの市民の「未来の横浜」への想いをカタチに～



笑う。食べる。学ぶ。働く。遊ぶ。深呼吸する。
生きていくうえで関わるすべてのことが、手の届く範囲の中にある。
港と丘、文化と自然、歴史あるものと新しきもの。
時には葛藤しながらも、様々なものをやさしく包み込み、
人が、人と、人らしく、すごせる街。自然に、自分らしくいられる街。
そんな街で、あなたとわたしが、出会い、認めあい、高めあう。

それは、ここに暮らす人たちが自ら思い描いた、未来のヨコハマ。
長い歩みの中で、異なるものを受け入れ、新たなものを生み出しつづけた
ヨコハマの、もう始まっている未来。

いまと未来をむすぶのは、開港を経てヨコハマが育んできた
真の多様性と、住みやすい環境を自分たちで創りだす市民のチカラ。
ここにしかない自由で開放的な風が吹き抜ける。
そんなヨコハマを、みんなで創りあげよう。



ご清聴ありがとうございました

